

説 教

第四アドベント聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2021年12月19日(日)

主 題：「わがたましいは主を崇めます」

—Magnificat—

テキスト：ルカ福音書1章46—55節

はじめに

- ・ 第四アドベント聖日を迎えました。クリスマス、おめでとう！
私たちは今年も「アドベント・リース」に、順に点火してきました。第一アドベントのローソクは「期待」、第二アドベントのローソクは「備え」、第三アドベントのローソクは「光」、そして今日の第四アドベントのローソクは「約束」を象徴しています。
- ・ ベツレヘムの村で生まれた幼子イエスの誕生は、大いなる「約束の成就」でした。イエスを信じる全世界の民が、今週この幼子の誕生を記念します。皆さん。子どもが誕生するまでには、「待つ」という時間が求められます。そして、その「時」(約束の成就)が来れば子どもは必ず生まれてきます。全家族は声を上げて喜びます。御子イエスの誕生の「時」が来ました。私たちも神の御子イエスの誕生を喜びましょう。
- ・ ところで、イエスの母となったマリヤは、次のように言いました。
1:46 マリヤは言った。「わがたましいは主をあがめ、
1:47 わが霊は、わが救い主なる神を喜びたたえます。
- ・ 46節～55節までを「マリヤの讃歌」(ラテン語で magnificat)と言います。マリヤという一人の女性(十代の少女、一説では14歳?)が、神を賛歌しました。考えてください。まだ十代の少女マリヤの口に、どうしてこのような立派な「讃歌」を生まれたのでしょうか・・・?
- ・ 人間的視点からみれば、十代の少女がこのように賛美できるとは、とても信じられません。しかし、信仰的視点からみれば、信じられるのです。それは彼女に無垢な信仰があったからです。マリヤには単純な信仰、素朴な信仰、理屈でも学問でもない、純粹な信仰があった、と私は思います。
- ・ ここに、神が選ばれた少女マリヤを見ることが出来ます。そこには神の奥義がありました。今日はイエスの母マリヤに焦点をおいて、イエスの誕生を覚えてく願います。

2点

大切なポイント

1. 神が選ばれた器マリヤ

1) 神の前の謙遜

1:48 主はこの卑しいはしために目を留めてくださったからです。ほんとうに、これから後、どの時代の人々も、私をしあわせ者と思うでしょう。

- マリヤは神の前で自分の存在を「卑しいはしため」と言いました。「はしため」とは、主人の言うことを忠実に行う「召し使いの女性」のことです。つまり主人所有の「召し使いの女性」です。
- 謙遜な人とは、神の前に正直である人ではないかと思えます。私たちは真の姿を見ようとするなら、鏡の前に立つ必要があります。聖書は心の鏡です。聖書を読めば、心がそのまま映し出されます。真の謙遜は、真の神の前に立つことから始まります。なぜなら、人は「まことの光」に照らされ、はじめて真の姿が映るからです。
- マリヤは神の前に自分を置き、「主はこの卑しいはしため」と、賛歌しました。私たちは、いったいどんな賛歌を神に捧げるでしょうか。

• マリヤ賛歌の言葉：

1:48 ほんとうに、これから後、どの時代の人々も、私をしあわせ者と思うでしょう。

マリヤは、どうして後世の多くの女性の祝福の型となったのでしょうか？理由はどこにあるのでしょうか？彼女が、特別に優秀な女性であったからでしょうか？ 血筋が良かったからでしょうか。 努力し修行を重ねたからでしょうか。 あるいは、彼女が優れた女性であったからでしょうか

⇒ いいえ。彼女は自らを「私は主のはしためです。」(1:38)、と言いました。

- マリヤは、「主が目を留めてくださったからです。」、と言いました。すなわち、主権を持っておられる神が、私の目を留めてくださったからと告白しました。

2) 神への信仰

1:49 力ある方が、私に大きなことをしてくださいました。

- この時点では、イエスはまだ誕生前でした。それなのに彼女は、このように「力ある方が、私に大きなことをしてくださいました」(1:49)、と告白しました。
- マリヤは、どうしてこんな大胆な言葉を語れたのでしょうか。前に大いなる神の特別な経験をしたからでしょうか。彼女はまだ結婚前でした。今の

時代とは違い、そのような状態で、子を宿し妊娠することは認められませんでした。彼女には少なくとも、4つのハードルがあったでしょう。

- ① 超自然的であり、常識ではありえないこと
- ② 多くの人に理解されないこと
- ③ 人々から誹謗（ひぼう）、中傷を受けること
- ④ 婚約中のヨセフに納得してもらうこと

- ・とりわけユダヤ社会では、律法によって認知されることではありませんでした。発覚した際は、極刑が行われていた時代でした。このことが明るみに出たら、命の危険がありました。彼女は「**力ある方が、私に大きなことをしてくださいました**」と大胆に言いました。つまり、彼女はその状態を受けとめたのでした。

- ・しかし、このような大きなことを、突然受けとめることが出来る人はいないでしょう。普通は驚き、不安、恐れ、パニック状態になるのではないのでしょうか。

- ・では、彼女はどのようにして事態を、受けとめられたのでしょうか。

1:48 主はこの卑しいはしために目を留めてくださったからです。

彼女は自分を見ることができた人でした（主のはしためですと告白）
マリヤがこの大いなる事態を、受けとめた背後には何があったのでしょうか。

⇒ 神への信頼（信仰）があった。大きなチャレンジだ

- ・神への信仰がなければ、極刑に遭い命があぶないほどでした。それだけではありません。ヨセフとマリヤの両家も、ユダヤ社会で大きな恥を味わわねばなりませんでした。ここに神への信仰が、彼女に勇気を与えたことが分かります。

- ・皆さん。神を信じるとは、疑いではなく神を信頼することです。まったき信頼には平安があります。人間は互いに信頼関係に置かれ、はじめて成長し成熟するものです。考えてみれば、互いに信頼がなければ、良い関係をもつことはできません。

{例 話} サーカスの空中ブランコ、

- ・こんな話を聞いたことがあります。サーカスの空中ブランコの曲劇です。彼らは会衆の目前で、息を飲むような空中プレイをしてくれます。空中ブランコはサーカスの中でも、ハイライトのひとつです。
- ・曲芸師たちは、右と左に見事に空を美しく舞います。
一番むつかしいのは、飛ぶ人と受ける人のタイミングだそうです。いつ、ブランコから手を離すべきかです。それを誤ると下へ落下します。

- どこで大切なルールがあるそうです。それは飛ぶ人は、決して受ける人の手を自分からつかんではいけないことです。受ける人を信頼して、ブランコから手を離すことです。すると受ける人は、飛ぶ人をしっかりとつかんでくれます。⇒ 信頼関係

- 私たちが知らなければならないことは、私たちは決して優れた者ではないことです。にもかかわらず、神は私たちを信頼してくださいます。そして私たちがつかんでいるものを手離すなら、神は受ける人として、しっかりとつかんでくださいます。

「マリヤ賛歌」には、彼女の無垢な信仰が表れているのです。

1:49 力ある方が、私に大きなことをしてくださいました。 その御名は聖く、

- 名前は存在を現します。神は「聖」なるお方です。動詞形の「聖」は、「ハギアゾー」（ギリシャ語）と言い、その意味は聖であるゆえに「他の物と比較できない聖さ」のことです。つまり比類ないほど「聖い」ということです。神の本性、そのものが「聖」なのです。

{例 話} 口語訳聖書:「主の祈り」の冒頭:「御名が崇められますように！」
この「崇める」という言葉が、「ハギアゾー」です。語彙的に理解するならば、「御名が聖でありますように」ということです。神の本性である「聖」が、とにかく「聖でありますように」という意味です。

- このように彼女は、神を本当に信頼した女性でした。マリヤは神に愛され、神の恵みを受けた女性でした。

1:28 御使いは、はいつて来ると、マリヤに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」 ルカ

- 信仰は、先ず神を信頼することから始まります。神への信頼がマリヤに恵みを与えました。ここに人生で重要な鍵があります。人生の意義は、どこにあるのでしょうか？ 人目に映る功績は、社会的成功度で計られるでしょうしかし、人生の真の意義は、だれが計ることができるのでしょうか。
⇒神お一人です。神を信頼し、愛し、神の恵みに与ることです。マリヤはその意味で、正しいお方を信頼していました。
- マリヤが子を宿したことは、もう一点大切なことがありました。

2. 神のみことばの成就

1) 「神のあわれみ」によって選ばれた

1:50 そのあわれみは、主を恐れかしこむ者に、代々にわたって及びます。
神の恵みは代々に及ぶ・・・・・・・・。なんと幸いな人生ではないか。

神の約束⇒

「あなたは知っているのだ。あなたの神、主だけが神であり、誠実な神である。主を愛し、主の命令を守る者には恵みの契約を千代までも守られる」
申命記7:9

(1) 「あわれみ」は神の本性

- ① 「同情」 “Mitleid” {ドイツ語でミッドライド}、それは、苦しみともに担うという意味、同じように荷を背負うこと、同じように苦しみを体験すること、同じように痛みを経験すること。
- ② 他の必要の理解
他人の痛みを理解すること。イエスは、「主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである。」ヘブル2:18とある。
- ③ 免罪、寛大
「あわれみ」とは寛大な心をもって、罪を免除すること。

(2) 聖書は「神のあわれみ」を語る。 口語訳

マルコ1:41 イエスは深くあわれみ、手を伸ばして彼にさわり、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。

ルカ1:58 近所の人々や親族は、主が大きなあわれみを彼女におかけになったことを聞いて、共どもに喜んだ。

ルカ1:72 こうして、神はわたしたちの父祖たちにあわれみをかけられた。

ルカ1:78 これはわたしたちの神のあわれみ深いみこころによる。また、そのあわれみによって、日の光が上からわたしたちに臨み……。

- ・ マリヤは、神のあわれみを受けた信仰の人でした。神のあわれみが、信仰の人に注がれると、神のご栄光が現されます。
⇒ それがMagnificat (マリヤの賛歌)
- ・ もうひとつ大切なことがあります。

(3) イエスの誕生は「神のあわれみ」 口語訳

『わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、学んでください。わたしがきたのは、義人を招くため

はなく、罪人を招くためである」マタイ 9:13

- ・イエスがこの世に人の姿をとって生まれたのは、「神のあわれみ」でした。⇒ 私たちを神の元に招くためでした。

神の愛の中に自らを保ち、永遠のいのちを目あてとして、わたしたちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。ユダ 1:21

- ・私たちも、「神のあわれみ」の内を歩むことができます。
神は、マリヤのように謙遜に生きる人に、イエス・キリストのゆえに「あわれみ」を注いでくださいます。 皆さん。信仰を持つ人に、「神のあわれみ」が注がれるならば、⇒ 神の栄光が現される

そこで驚くべき神の現実が実現するのです

- ・マリヤは「卑しいはしため」と告白しました。しかし、すばらしい恵みを受ける器となりました。ここに祝福を受けた鍵が秘められています。神はあわれみ（神の本性）です。

⇒ マリヤには神の約束は、必ず成就するという信仰がありました。

ま と め

テーマ：「わがたましいは主を崇めます」

—Magnificat—

1. マリヤには神への信仰があった。 人 ⇒ 神へ
2. マリヤには神のあわれみが注がれた 神 ⇒ 人へ

* God bless you!